

## 2012（平成24）年度決算について

学校法人 桃山学院  
理事長 水谷和生

2012（平成24）年度学校法人桃山学院の決算は、監査法人ならびに監事の監査を経たうえで、2013年5月21日（火）開催の理事会で承認されました。ここに決算概要の説明と決算諸表の公開を以下のとおり行ないます。

### [ 決 算 概 要 ]

#### (1) 資金収支計算書

資金収支計算書は、年度の諸活動に対応するすべての資金収入と資金支出の内容を明らかにするとともに、支払資金の顛末も明らかにする書類です。ここでは、予算額との比較で説明します。

2012年度の決算は収入の部合計で、11億3,175万円増の185億2,825万円となりました。これは、前受金収入などの減がありましたが、補助金収入、資産運用収入（主に受取利息）、その他の収入（特定資産間の振替のための取り崩し）などが見込み額よりも上回ったためです。

一方、支出の部では、経常費の節減により、人件費支出、教育研究経費支出、管理経費支出などが減少しましたが、資産運用支出（他の特定資産からの振替による繰入増）や設備関係支出の増により、次年度繰越支払資金を除く支出合計で5億4,430万円の増となりました。

そのなかで、既述の経常費につきましては、少子化にともなう減収傾向への対策として教学条件の維持・向上に支障をきたさないことを前提に、ゼロシーリングの継続や業務委託費等の削減を盛り込んだ予算編成方針に基づき、全所管あげて各種経費の積極的な見直しを行い、削減に努めました。

このように支出増とはなりましたが、それを大幅に上回る収入増の結果、次年度繰越支払資金は5億8,744万円増加の66億2,850万円となりました。

#### (2) 消費収支計算書

消費収支計算書は、消費収入と消費支出の内容を明らかにし、消費収支の均衡状態（経営状態）をあらわすもので、企業会計の損益計算書に該当するものです。ここでは、予算額との比較で説明します。

まず、基本金組入額を控除する前の帰属収入合計においては、1億9,487万円増の107億3,335万円となりました。これにつきましても、資金収支計算書で述べました補助金や資産運用収入の増が主な要因です。

基本金組入額につきましては、16億7,129万円増の19億371万円となりました。その中身につきましては、図書や備品関係といった恒常的な取得資産の他に、キャンパス整備事業計画に基づく第2号基本金への組入れや、国際交流事業、社会貢献事業、およ

び課外活動の活性化のための第3号基本金への組入れに関するものがあります。

そこで、帰属収入から基本金組入額を控除した消費収入合計は、88億2,964万円となり、14億7,643万円減少しました。

消費支出につきましては、(1)で述べましたように全所管あげての経費削減努力により、人件費をはじめとするすべての科目において減少しました。合計では97億8,439万円となり、2億2,000万円減少しました。

帰属収入が増加し消費支出が減少したものの、それを上回る基本金組入れにより、当年度消費収支は、9億5,475万円の支出超過となり、翌年度繰越消費収入超過額は43億3,292万円となりました。

また、一般に「経常収支」と言われる帰属収支差額につきましては、4億1,486万円増の9億4,896万円となり、帰属収支差額比率は3.77ポイント増の8.84%となりました。

### (3) 貸借対照表

貸借対照表は期末における学院の財政状態を示します。ここでは、前年度決算額との比較で説明します。

まず資産の部ですが、有形固定資産では、前年度同様大規模な設備投資がなかったことで、減価償却により5億1,817万円減少しました。その他の固定資産は、長期貸付金の減がありました。減価償却引当資産の恒常的な積み立てや第2号基本金引当資産への繰入れによる増などにより、9億3,229万円増加し、結果、固定資産合計では4億1,413万円の増加となりました。

流動資産は、現金・預金の増により、合計で2億6,220万円の増加となりました。総資産額では、6億7,632万円増の822億1,402万円となりました。

負債の部では、固定負債における退職給与引当金の減や長期末払金（リース債務）の減、流動負債における預り金の減などにより、負債合計で2億7,264万円の減少となりました。

したがって、純資産額（総資産額－総負債額）は2011年度末に比して、9億4,896万円増の768億1,562万円となり、総資産額に占める割合は前年度末より0.4ポイント増の93.4%となりました。

なお、各々の科目の数値等につきましては別掲「各種計算書類」を、上記財務3表における実績ベースでの経年の概況・比較につきましては同「事業報告書 Ⅲ.財務の概要 5.財務状況の推移 および 6.財務比率の推移」等をご覧ください。

以 上

- ◆ 2012 年度 事業報告書
- ◆ 2012 年度 資金収支計算書
- ◆ 2012 年度 消費収支計算書
- ◆ 2012 年度 資金収支・消費収支内訳表
- ◆ 2012 年度 貸借対照表
- ◆ 2012 年度 財産目録総括表